

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会人基礎		建築学科/1年	2023/通年	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	30回	90時間	必須	西川 覚
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・専門学校での学習の意味を理解し進路を決定する際に必要な知識とスキルを身につける ・日頃の習慣が自分の進路選択に与える影響が大きいことを理解する ・その他学習状況のヒアリングや個別のアドバイスを実施する(HR的内容) 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・自己PRや志望動機など履歴書に必要な項目を自ら考えて表現することが出来る ・就職活動の進め方を理解し自主的に活動することが出来る ・物事の見方と考え方や話しを聴くことの重要性を理解して問題意識を持つことが出来る 				
実務経験有	実務経験内容			
有	人材総合サービスにて人材育成支援に従事			
時間外に必要な学修				
・良い習慣を身につけるために自分がすべきことに気付き日々行動すること(日々の振り返りと反省と反復)				
回	テーマ	内容		
1	新しい学びを効果的にする	穴吹学園での学び方について+各チューターによるHR		
2		良い習慣を身に付ける+各チューターによるHR		
3		話の聴き方+各チューターによるHR		
4		偶然がつくる人生+各チューターによるHR		
5		モノの見方①+各チューターによるHR		
6		モノの見方②+各チューターによるHR		
7	卒業後をイメージして学ぶ	就職活動の世界を知る①+各チューターによるHR		
8		就職活動の世界を知る②+各チューターによるHR		
9	文章による表現の仕方を学ぶ	履歴書の書き方と伝え方+各チューターによるHR		
10		履歴書を作成する①(左半分)+各チューターによるHR		
11		自分を知る工夫①+各チューターによるHR		
12		自分を知る工夫②+各チューターによるHR		
13		文章の書き方と構成の仕方+各チューターによるHR		
14		文章の書き方と構成の仕方(自己紹介文)+各チューターによるHR		
15		文章の書き方と構成の仕方(自己紹介文)+各チューターによるHR		
16		文章の書き方と構成の仕方(趣味特技・特記事項)+各チューターによるHR		
17	情報の集め方を学ぶ	情報収集編+各チューターによるHR		
18		興味のある仕事について調べる+各チューターによるHR		
19		興味のある仕事について調べる(志望動機を考える)+各チューターによるHR		
20		興味のある仕事について調べる(志望動機を考える)+各チューターによるHR		
21	言葉での表現の仕方を学ぶ	考え方(その1)①+各チューターによるHR		
22		考え方(その1)②+各チューターによるHR		
23		プレゼンの基本と応用+各チューターによるHR		
24		他の学生との違いをアピールする方法+各チューターによるHR		
25		企業の話しを聞こう+各チューターによるHR		
26		面接のポイントを理解する+各チューターによるHR		
27		進路調査票記入+履歴書記入+各チューターによるHR		
28		進路調査票記入+履歴書記入+各チューターによるHR		
29		進路調査票記入+履歴書記入+各チューターによるHR		
30		進路調査票記入+履歴書記入+各チューターによるHR		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト：熱血！森吉弘の就勝ゼミ教材		授業態度・取り組み方 提出課題評価	60% 40%	質問がある場合は メールにて受け付けます

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
材料学		建築学科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	玉田美貴
授業の概要				
<p>前半、建築・インテリア空間を構成しているものすべてが「インテリアエレメント」。項目ごとに、種類および分類をテキスト・写真で確認し、知識を深めていく。後半、木質系素材・左官・タイル・ガラスなどの具体的な建築材料の性質と特徴などを項目ごとに学ぶ。なお知識定着のため期末試験及び期末レポートを提出させる。この授業を通して得た知識を建築設計・インテリアコーディネートPLANに反映させる。</p>				
授業終了時の到達目標				
(基本目標:C評価以上)				
<ul style="list-style-type: none"> インテリア空間を構成している様々な要素と役割を理解できる 建築を構成する部材はどのような材料でできているのか理解できる 				
(標準目標:B以上)				
<ul style="list-style-type: none"> 各インテリアエレメントの商品知識と専門用語を理解できる 建築材料の性能・特徴の理解が深まっている 				
(発展目標:A評価)				
<ul style="list-style-type: none"> 建築設計に必要な材料選定の基本が理解でき、PLANに反映できる エレメントの知識を活かした幅広いスタイルのインテリアコーディネート・デザインができる インテリア・建築に関する資格習得につなげる 				
実務経験有	実務経験内容			
有	インテリアコーディネート・デザイン(戸建・集合住宅・店舗・事務所等)の実務経験経験			
時間外に必要な学修				
<p>各回の授業の内容をテキストで見直し、プリントを自分なりに整理する。身の回りのインテリアエレメント・インテリア材料・建築材料を意識する。また建築材料は日進月歩進んでいる。専門雑誌やwebなどの関連参考資料など情報収集することを習慣化する。</p>				
回	テーマ	内容		
1	インテリアエレメント	インテリアエレメントとは		
2	家具	家具の分類・名称・椅子のデザインなど		
3	ウインドウトリートメント	窓装飾の機能と役割・種類・カーテンのスタイル		
4	照明	照明の基礎知識・照明器具・光源など		
5	設備機器	キッチン・浴室・トイレ・洗面		
6	開口部・建具	建具の種類・窓		
7	和室の造作・インテリアアクセサリ	和室各部の名称など・インテリアアクセサリの種類		
8	木材	木材の種類・特徴・構造など		
9	コンクリート	コンクリートとは・性質・種類など		
10	鋼材	鋼材の種類・特徴・その他の金属		
11	焼成品	タイル・レンガ・瓦		
12	ガラスと石	特徴・種類		
13	左官材料・その他の材料	左官の特徴・種類・その他の材料(塗料・プラスチックなど)		
14	内装の仕上げ材	床・壁・天井材料の種類		
15	まとめ試験	復習まとめ試験及び私の好きな材料についてレポート提出		
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
世界で一番やさしいインテリアプリント		照明レポート 期末試験 期末レポート 授業への取り組み	10% 40% 40% 10%	質問, チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
福祉住環境計画論		建築学科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	松原 綾
授業の概要				
高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案するための福祉、建築などに関する幅広い知識を体系的に身につける				
授業終了時の到達目標				
高齢者や障害者の具体的事例に対して適切に対処できる。住環境整備に関する制度や設計指針の活用法、また福祉用具、介護用品から家具の選択と利用方法を理解・習得し、適切なアドバイスができるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験		
時間外に必要な学修				
何気なく生活している中にあるバリアを発見する。高齢者や障害者と共生するとはどういうことかを考えてみる。				
回	テーマ	内容		
1～3	第一章 暮らしやすい生活環境を目指して	①授業概要、1節 少子高齢社会と共生社会への道、 ②2節 福祉住環境整備の重要性・必要性 ③3節 在宅生活の維持とケアサービス		
4～5	第二章 健康と自立を目指して	④1節 高齢者の健康と自立 ⑤2節 障害者が生活の不自由を克服する道		
6～8	第三章 バリアフリーとユニバーサルデザイン	⑥1節 バリアフリーとユニバーサルデザイン 2節生活を支えるさまざまな用具 ⑦前半テスト(第1章～第3章) ⑧2節 生活を支えるさまざまな用具		
9～10	第四章 安全・安心・快適な住まい	⑨1節 住まいの整備のための基本技術 ⑩2節 生活行為別に見る安心、安全、快適な住まい 3節 生活行為別に見る安心、安全、快適な住まい。		
11	バリアフリー住宅 事例紹介	ある住宅の図面をみながらどこにバリアフリーの工夫がされているか皆で考えながら実践を身につける。		
12～14	第五章 安心できる住生活とまちづくり	⑫1節 住まいの整備のための基本技術 ⑬2節 生活行為別に見る安心、安全、快適な住まい 3節 生活行為別に見る安心、安全、快適な住まい。 ⑭後半テスト(第3章～第5章)		
15	特別講義	⑮福祉用具について:福祉用具の会社の方に講義をして頂きどのような福祉用具があるか知る。講義後、レポートを提出。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
福祉住環境コーディネーター検定試験3級、A4ファイル		・前半試験 ・後半試験 ・レポート提出	45% 45% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
空間表現基礎2		建築学科/1年	2023/前期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	實藤優子
授業の概要				
抽象表現を中心とした造形表現を通し空間や立体物に対する感性を養う。身の回りのデザインされたものを観察・自らデザインを考えるとときに造形的な視点を持つことができるよう学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
(基本目標:C以上) ・与えられたテーマや条件に対して作品を制作し、表現することができる。 (標準目標:B以上) ・与えられたテーマや条件に対しての自分の考えをまとめ作品に落とし込むことができる。 ・作品に合う空間、空間に合う作品を意識することができる。 ・作品をプレゼンテーションすることができる。 (発展的目標:A) ・与えられたテーマや条件から、自ら主題を設定し、空間も意識した制作することができる。 ・多様な表現方法の中から意図に合う表現を選択、組み合わせることで独創的な表現ができる。 ・伝える工夫がされたプレゼンテーションをすることができる。				
実務経験有	実務経験内容			
有	設計事務所にてインテリアデザイナーとしての経験。			
時間外に必要な学修				
建築やデザインやアートなどを数多く鑑賞すること。 「かっこいいかたち」「かたちの意味」「雰囲気作り方」「意図に合わせた造形」などに注目してほしい。				
回	テーマ	内容		
1	授業説明 課題①説明	授業の進め方、課題の提出方法、コマシラバスの確認方法等 課題①「立ち上がるかたち」		
2	課題①制作	課題①制作について個別の質疑応答		
3	講評会① 課題②説明	作品について教員、学生からコメント。 課題②「積層するかたち」		
4	課題②制作	課題②制作について個別の質疑応答		
5	講評会② 課題③説明	作品について教員、学生からコメント。 課題③「3*6壁のためのかたち」		
6	課題③制作	課題③制作について個別の質疑応答		
7	講評会③ 課題④説明	作品について教員、学生からコメント。 課題④「1畳のためのかたち」		
8	課題④制作	課題④制作について個別の質疑応答		
9	講評会④ 中間自己評価・相互評価 課題⑤説明	作品について教員、学生からコメント。 ここまでの制作について振り返り。 課題⑤「巨匠に捧げるかたち」		
10・ 11	課題⑤制作	課題⑤制作について個別の質疑応答		
12	講評会⑤ 最終課題説明	作品について教員、学生からコメント。 最終「自由制作」		
13・ 14	最終課題制作	最終課題制作について個別の質疑応答		
15	最終課題講評会 総評・自己評価・相互評価	作品について教員、学生からコメント。 総評 まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント、参考資料などを適宜配布		課題①～⑤ 最終課題	各16% 20%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
空間表現基礎1		建築学科/1年	2023/後期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
180分	11回	44時間	必須	小笹和子
授業の概要				
手描きパースの指導・実習を行う。住宅のインテリア空間及び外観をスケッチ、パース(簡略図法)で立ち上げインキングや着彩を行う。				
授業終了時の到達目標				
[基本目標]・図面を基に縮尺に正確に立ち上げが出来る・パースのグリッドの取り方を理解する・マーカーによる着彩表現が出来る [標準目標]・自身の空間デザインイメージを正確に一消点パースで表現出来る・アイソメトリックパースで空間表現が出来る・マーカーによる着彩表現のステップアップ(特に陰影表現) [発展的目標]・二消点の室内パース、及び、二消点の外観パース表現が出来る・シーンに応じてドローイングの使い分けが出来る・インテリア及びエクステリアのデザインイメージが表現出来、実務で素早く対応出来るフリーハンドスケッチが描ける・パースを取り入れたプレゼンテーションが出来る				
実務経験	実務経験内容			
有	パース製作デザイン事務所を経て、内装及び外観パース製作・指導に従事。他、手描きイラスト制作等。			
時間外に必要な学修				
立体や空間を二次元で表現する演習なので、小さなスケッチ帳を日頃から携行し、モノやデザインのイメージ等をラフスケッチする癖をつけることが実践に繋がる。				
回	テーマ	内容		
1	第1課題「箱のスケッチ」	授業概要説明・フリーハンドラインレッスン・箱のスケッチ演習		
2	点景演習・一消点パースの基礎	家具、グリーン、人物、車の点景演習・四角い箱を立ち上げるレッスン		
3	第2課題「室内の一消点パース基礎」	一消点パースのグリッドの作成及び下書き		
4		ピグマにてフリーハンドインキング、マーカー着彩仕上げ・次課題の準備		
5	校外学習①	ショップ見学とスケッチ演習		
6	第3課題「室内の一消点パース応用」	グループワーク、プランニング		
7		室内の二消点パースのグリッドの作成及び下書き、インキング		
8		アイソメトリックパース(パース応用)		
9		マーカー着彩仕上げ、ボード制作		
10	校外学習②	現場見学とワークショップ(予定)		
11	講評	まとめ・個人面談(予定)		
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「スケッチ感覚でインテリアパースが描ける本」 製図道具一式・マーカー		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100.0%	質問等はメールでも受け付けます。補習も要相談

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築CAD製図1		建築学科/1年	2023/後期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
180分	15回	60時間	必須	橋本明美
授業の概要				
建築CADソフトJW_cadの操作を習得し、CADによる図面の作成方法等について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
CADの特徴を理解し、操作方法を身に付け、習得した建築製図や設計手法をCADで表現できる。				
[基本目標:C評価以上]				
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な設定が理解でき、図形の作図ができる 簡単な家具や平面図の作図ツールの操作が理解できる 図面作成のための作図ツールの操作が理解できる 				
[標準目標:B評価以上]				
<ul style="list-style-type: none"> 作図手順を理解し図形の作図が正確にできる 作図手順を理解し家具や平面図の作図ができる 建築製図の知識をもとに図面の作図ができる 				
[発展的目標:A評価]				
<ul style="list-style-type: none"> 作図ツールを使いこなし要求した図形の作図ができる 作図手順を理解し家具や平面図の作図が正確にできる 建築製図の知識をもとに作図ツールを使いこなし、図面の作図ができる 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計・監理業務			
時間外に必要な学修				
CADソフトを使ってどれだけ作図したかがCADの技術習得の向上につながるので、操作の復習など積極的にCADを使って慣れる。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要と基本操作	JW_cadの基本操作 作図と消去、画面表示の操作、作図の編集		
2	作図練習①	課題図面の作図 寸法の決まった図の作図と図面保存		
3	作図練習②	課題図面の作図 図面を開き、かき加える		
4	作図練習③	課題図面の作図 家具の作図		
5	作図練習④	課題図面の作図 簡単な平面図の作図		
6	作図練習⑤	課題図面の作図 文字の記入、寸法の作図		
7	レイヤ操作の習得と図面枠の作図	レイヤ操作練習 図面枠の作図		
8	基本的な平面図の作図①	課題図面の作図① 事務所ビル1階平面図の作図		
9	基本的な平面図の作図②	課題図面の作図② 事務所ビル1階平面図の作図		
10	基本的な平面図の作図③	課題図面の作図③ 事務所ビル2階平面図の作図		
11	基本的な平面図の作図④	課題図面の作図④ 事務所ビル2階平面図の作図		
12	応用課題①	課題図面の作図① 住宅図面のトレース		
13	応用課題②	課題図面の作図② 住宅図面のトレース		
14	応用課題③	課題図面の作図③ 住宅図面のトレース		
15	まとめ	課題図面の手直し、ブラッシュアップ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> やさしく学ぶJW_cad☆デラックス プリント配布 		到達目標の到達度と課題提出物により総合的に評価する。	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築CAD製図2		建築学科/1年	2023/前期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
180分	15回	60時間	必須	半田和之
授業の概要				
3DCADソフトを使用して設計図を3次元化しプレゼンテーションの幅を広げる為の技術を養う。				
授業終了時の到達目標				
1. ソフト基本操作を理解し、図形の作図ができる 2. 2次元及び3次元ツールを操作し、図面の作図ができる 3. 3DCADを活用し、プレゼンテーション内容の充実を図ることができる				
到達目標に応じた学修目標				
[基本目標:C評価以上]				
①基本的な設定を理解し図形の作図ができる ②図面作成のための作図ツールの操作が理解できる ③図面レイアウトや図面表現のための設定が理解できる				
[標準目標:B評価以上]				
①要求されている図形の作図ができる ②建築製図の知識をもとに図面の作図ができる ③設定やツールを使いこなして図面の作成ができる				
[発展的目標:A評価]				
①要求されている図形の作図やデザインができる ②要求されている図面のレイアウトや図面表現ができる ③自分なりに工夫し図面レイアウトや図面表現ができる				
実務経験有	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験			
時間外に必要な学修				
授業で学んだことを他の授業でも活用し、実践を通して理解を深めること。 また、建築インテリアに限らず専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	3DCGとは	授業内容の説明、ソフトの説明、ソフトのインストール、作業環境設定、ソフトの操作		
2	基本操作 I・II【SKETCHUP】	画面と各部名称 基本操作、レイヤの設定と縮尺 3D作図の基本		
3	3D作図基礎 I【SKETCHUP】	3D作図の基本		
4	3D作図基礎 II【SKETCHUP】	3Dモデリング1		
5		3Dモデリング2		
6		3Dモデリング3		
7	3D作図基礎 III【TWINMOTION】	3Dレンダリング1		
8		3Dレンダリング2		
9		3Dレンダリング3		
10	3D作図応用 【SKETCHUP+TWINMOTION】	課題作図 名作住宅を作る1		
11		名作住宅を作る2		
12		名作住宅を作る3		
13		名作住宅を作る4		
14		名作住宅を作る5		
15	まとめ	講評会、課題作品のブラッシュアップ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
SketchUpパーフェクト 作図実践+テクニック編 課題資料:プリント配布		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%	質問、チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築製図1		建築学科/1年	2023/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
180分	26回	104時間	必須	岡田英治
授業の概要				
<p>建築製図の基礎を実際の作図を通して習得する。 また、作図を通して建築・インテリア各部の基本的な名称、納まりなどについても学習する。 主に木造2階建て住宅を教材とし、鉄筋コンクリート造住宅についても行なう。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>二級建築士試験における製図の試験課題の答案レベルの作図表現をめざす。 CAD製図及び実務のために必要な図面を読み取る能力も身に付ける。</p>				
(基本目標:C評価以上)				
・課題の内容を正しく作図できる				
(標準目標:B評価以上)				
・課題の内容を正しく、かつ丁寧に分かりやすく作図できる				
・作図した図面から立体空間を認識できる				
(発展的目標:A評価以上)				
・課題の内容を正しく、かつ線の強弱を用いて丁寧に分かりやすく作図できる				
・作図した図面から立体空間を認識できる				
実務経験の有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での調査、企画、設計及び工事監理業務に関する実務経験			
時間外に必要な学修				
<p>課題で作図している内容を自宅に置き換えて確認してみること。 また、各部分の寸法を実際に測ってみること。</p>				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス、第1課題:「線の練習」	授業の注意事項及び製図道具の説明		
2		線の太さと線の種類の描き分けの練習		
3	第2課題:「木造住宅 配置図・平面図」	教科書の木造2階建て住宅の配置図、各階平面図を作図する		
4				
5				
6				
7	第3課題:「木造住宅 断面図・立面図」	教科書の木造2階建て住宅の断面図、立面図を作図する		
8				
9				
10	第4課題:「鉄筋コンクリート造住宅 配置図・平面図」	教科書の鉄筋コンクリート造2階建て住宅の配置図、各階平面図を作図する		
11		〈本課題までを前期評価の対象とする〉		
12				
13	第5課題:「鉄筋コンクリート造住宅 断面図・立面図」	教科書の鉄筋コンクリート造2階建て住宅の断面図、立面図を作図する		
14				
15				
16	実務の設計図とその施工中、竣工の様子を紹介	担当教員が実際に担当した住宅等の実務の紹介		
17	第6課題:「鉄筋コンクリート造住宅 矩計図」	教科書の鉄筋コンクリート造2階建て住宅の矩計図をトレースする		
18	第7課題:「木造住宅 矩計図」	教科書の木造2階建て住宅の矩計図をトレースする		
19	第8課題:「木造住宅 平面詳細図・展開図・天井伏図」	教科書の木造2階建て住宅の平面詳細図(和室)、展開図を作図する		
20		教科書には記載のない天井伏図についても作図する		
21				
22	第9課題:「二級建築士製図の試験過去課題答案例」	過去の二級建築士製図の試験で出題された課題の模範回答例を作図する		
23		〈本課題までを後期評価の対象とする〉		
24				
25				
26	まとめ・テスト	建築製図の総括と、スケール感のテストを実施する		
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書:「初学者の建築講座 建築製図 最新版」 参考書:「構造用教材」 教材:平行定規他製図道具一式		全課題が提出され、到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する。	100%	質問、チェック依頼などはEメールでも受付ます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
空間表現応用		建築学科/1年	2023/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	24回	48時間	必須	佐々木智子
授業の概要				
<p>・デザインにおける色彩の働き、重要性を知る。・系統的な色表示、さまざまな配色類型、色彩の心理的な側面を学ぶ。・色彩コンセプトに基づいた作品構成及びプレゼンテーションを行う。・色彩の基礎知識を学ぶことにより、個性を生かしながら、空間デザインにおける表現を豊かにする。・色彩検定UC級以上の合格を目指す。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>基本目標:C評価以上 ・ヒュートーンシステムの概念について理解し、カラーコードとして使用できる・基礎配色をデザインに活用できる・色彩の科学について理解する</p> <p>標準目標:B評価以上 ・色彩検定3級合格もしくはそれに準ずる学習度に達している</p> <p>発展的目標:A評価 ・デザインに対し、オリジナルな創作的姿勢や関心を持って取り組む</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	<p>パーソナルカラールームT・I、NPO法人カラーリストジャパン協会でのカラーコンサルティングの経験を生かし、建築・インテリアにおけるカラーコーディネートの実務を指導する。</p>			
時間外に必要な学修				
身の回りにあるさまざまな色彩デザインに興味を持つこと。				
回	テーマ	内容		
1	デザインと色彩について/色彩検定ガイダンス	授業の目的と進め方について、配色シートの作成、色彩検定に関する説明		
2	カラーシステムの理解	色の表示方法:PCCS、ヒュートーンシステムについて理解する、トーン図作成		
3		トーンイメージに基づく平面構成演習		
4		色相イメージに基づく平面構成演習		
5	色彩の心理的側面	色彩心理:色から連想されるもの、受けるイメージについて理解する		
6		色彩感情と色のイメージ		
7	基礎配色	色相配色について理解する		
8		トーン配色について理解する		
9		アクセントカラー、セパレーション、グラデーション		
10	環境における色彩計画	色彩が生活空間にどのような影響を与えるのか確認する		
11	色彩応用演習	配色分析/作品提出		
12		カラーイメージコラージュ作成/作品提出		
13		プレゼンテーション		
14		色の視認性、誘目性、識別性/作品提出		
15	カラーコードに関する知識をその活用	マンセルシステム		
16	色彩検定対策強化	光と色ー可視光とは何か、を理解する		
17		眼の働き、構造、色覚について理解する		
18		ユニバーサルデザイン		
19		色の機能的役割、その表現について		
20		過去問題演習		
21		過去問題演習		
22	マンセルカラーシステム	マンセルカラーシステムに基づくカラーデータ演習		
23	インテリアにおける色彩表現	配色類型に基づいてインテリアパースに着色		
24	//	インテリアプレゼンボード作成(カラースキーム入り)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
色彩検定UC級公式テキスト 色彩検定過去問題 新配色カード199b		到達目標に即して各課題の提出状況及び到達度で評価する	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築設計演習1		建築学科/1年	2023/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	30回	60時間	必須	衛藤翔平
授業の概要				
<p>人間生活の基本となる住まい、居住空間の設計・デザインの知識と技術について、演習課題を通して体験的に習得する。住まいの設計はすべての建築(空間)設計の基本とも言われる。また、住まいとひとと言っても、ハウスメーカーの住宅から集合住宅、建築家やデザイナーの設計による個性的な住宅など、現代社会の中で多様な在り方が見受けられる。この授業を通して、住まいの設計の基本、さらには、現代建築の文脈の中で新しい価値を生むような住まいの在り方を探究できるような視点を育てる。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>(基本目標:C評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅設計の基本プロセスが理解できる ・手描きでエスキスやスケッチができる ・考えを少しでも設計に反映させることができる <p>(標準目標:B評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件を整理し標準的な住宅が設計できる ・毎週(区切り)ごとに定期的にチェックを受けて案をより良いものに修正することができる ・第三者に伝えるうえで必要十分なプレゼン資料(模型・ボード)を制作できる <p>(発展的目標:A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代建築の文脈の中で先進的なコンセプト・提案性を持つ住まいの設計・デザインを考えられる ・他の学生に対し指標となる制作プロセスを授業中のデザインレビュー等で公開することができる ・第三者を魅了するプレゼン資料(模型・ボード)を制作できる 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験		
時間外に必要な学修				
<p>授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。</p>				
回	テーマ	内容		
1	予備課題: 建築的(空間的)視点	自己分析「好き」を言語化してみる		
2		Candy-box house/菓子箱の家		
3		My home 20XX: 将来の自邸について考えてみる		
4		公開プレゼンテーション		
5	第1課題: 名作との対話	名作住宅の図面トレース, 基本構造と間取りの分析		
6		名作住宅を現代にアレンジするためのコンセプトを考える		
7		コンセプトからプランを考える		
8		コンセプトからプランを考える(続き)		
9		断面で考える		
10		断面で考える(続き)		
11		ディテールを考える/開口部・建具, 外部仕上		
12		ディテールを考える/内装		
13		模型で確かめる		
14		模型を撮影する		
15		プレゼンボードにまとめる		
16	第2課題: 集まって暮らす	敷地リサーチ		
17		敷地模型を作る		
18		基本計画(アクセス, 構造, 設備等の予備知識)		
19		ブロックモデルでマスタープラン		
20		各住戸のインテリアプランニング		
21		テナントスペースの設計		
22		ペントハウス(オーナー住戸)の設計		
23		プレゼンボードにまとめる		
24	第3課題: 家を再考する	住まいのコンセプト		
25		スタディ模型で考える		
26	(年内)	図面をまとめる		
27		プレゼン模型を作る		
28		プレゼン模型を作る(続き)		
29		プレゼンボードにまとめる		
30		公開プレゼンテーション		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ 模型道具一式 製図道具一式(平行定規を除く)		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%	質問, チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ショップデザイン		建築学科/1年	2023通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	26回	52	必須	河江正雄
授業の概要				
実際の設計業務に即し前期は1授業1テーマとして、イメージ模索、基本計画、プレゼンボードの作成、プレゼン資料の作成をする。				
授業終了時の到達目標				
実際に設計を行う際に必要である業務を1年に渡って習得する。 実践で必ず必要となるプレゼン能力も同時に高める。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験			
時間外に必要な学修				
授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	1年間の授業内容の説明、資料配布	課題01、課題02、課題03-1		
2		課題03-2、模型の作り方の基本		
3		課題03-3、模型の作り方の基本		
4		課題03-4、模型の作り方の基本		
5		課題03-5、模型の作り方の基本		
6		課題03-6、模型の作り方の基本		
7		課題03-7、模型の作り方の基本		
8		課題03-8、模型の作り方の基本		
9		課題03-9、模型の作り方の基本		
10		課題03-10、模型の作り方の基本		
11		課題03-11、模型の作り方の基本		
12		課題03-12、模型の作り方の基本		
13		課題03-13、模型の作り方の基本		
14		課題03-14、模型の作り方の基本		
15		課題03-15、模型の作り方の基本		
16		課題03-16、模型の作り方の基本		
17		課題03-17、模型の作り方の基本		
18		課題03-18、模型の作り方の基本		
19		課題03-19、模型の作り方の基本		
20		課題03-20、模型の作り方の基本		
21		課題03-21、模型の作り方の基本		
22		課題03-22、模型の作り方の基本		
23		課題03-23、模型の作り方の基本		
24		課題03-24、模型の作り方の基本		
25		課題03-25、模型の作り方の基本		
26		課題03-26、模型の作り方の基本		
27		修了制作		
28		修了制作		
29		修了制作		
30		修了制作		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
模型道具一式 製図道具一式		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%	質問、チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築デザイン		建築学科/1年	2023/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	26回	52時間	必須	山根利之
授業の概要				
建築の設計について、動線計画、断面計画、グリッドプラン、敷地計画などの設計の基本手法を実践的に習得するとともに、提案力と独創性を実践的に習得する。また、作品としての表現力を向上させる。建築設計演習2(2年生)と合同授業。				
授業終了時の到達目標				
建築設計プロセスを理解できる。さらにそれらを活かして、修了制作へ発展させる。また、基本となる表現テクニックが身につく。 (基本目標：C評価以上) ・建築的空間の機能やコンセプトを立案することができる ・基本的な建築計画に沿って設計できる (標準目標：B評価以上) ・建築的空間の機能やコンセプトに基づいたデザインができる ・基本的な建築計画に沿った正確な図面表現によって設計できる (発展的目標：A評価) ・建築的空間の機能やコンセプトをデザインし、図面や模型を駆使して伝えることができる ・正確な図面表現とともにシャープな着想から導かれた独創性のある設計を提案できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所の経験を活かし、公共建築の設計の知識と技術を教える。		
時間外に必要な学修				
設計課題に関する事例収集と敷地環境調査を行い、設計検討を重ね、各回のデザインレビューの準備をする。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要説明 第1課題「都市環境デザイン1」	中の棚マイクロオープンスペース(1, 2年生混成共同設計) 資料収集、事例紹介、デザインテーマ・コンセプト検討。		
2~5	デザイン案発表、デザインレビュー	デザイン案発表 デザインレビュー		
6	合同プレゼン 5/31	ID2ショップデザイン2、インテリアコーディネート2との合同プレゼン。		
7	第2課題「図書館」	地域に開かれたコミュニティ図書館(1, 2年生混成共同設計) 小学校計画確認、敷地設定、事例調査、資料収集、 デザインテーマ・コンセプト検討。		
8~12	デザイン案発表、デザインレビュー	デザイン案発表、デザインレビュー		
13	合同プレゼン 7/19	ID2ショップデザイン2、インテリアコーディネート2との合同プレゼン。		
14	第3課題「都市環境デザイン2」	公衆便所(個人設計) 資料収集、事例紹介、デザインテーマ・コンセプト検討。		
15~19	デザイン案発表、デザインレビュー	デザイン案発表、デザインレビュー		
20	2年生合同プレゼン見学 11/1	ID2ショップデザイン2、インテリアコーディネート2との合同プレゼン。		
21~24	デザイン案発表、デザインレビュー 卒制中間プレゼン見学 12/6	デザイン案発表、デザインレビュー		
25	第3課題プレゼン 12/13	1年第3課題の審査講評		
26	修了制作、予備日	不合格課題再提出		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布プリント 製図道具一式、模型製作道具一式		課題・レポート	100.0%	提出期限に遅れた場合、追課題を課す。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
インテリアプランニング		建築学科/1年	2023/後期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	11回	22時間	必須	山根利之
授業の概要				
住宅のリビングルーム、マンションのエントランス空間をデザインするための基礎的な知識・技術を修得する。				
授業終了時の到達目標				
<p>インテリア設計プロセスを理解できる。さらに基本となる表現テクニックが身につく。</p> <p>(基本目標：C評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インテリア空間のコンセプトを立案することができる ・基本的なインテリア計画に沿って設計できる <p>(標準目標：B評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インテリア空間のコンセプトに基づいたデザインができる ・基本的なインテリア計画に沿った正確な図面表現によって設計できる <p>(発展的目標：A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インテリア空間のコンセプトに基づきデザインし、図面や模型を駆使して伝えることができる ・正確な図面表現とともにシャープな着想から導かれた独創性のある設計を提案できる 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所の経験を活かし、内部空間をデザインするための知識と技術を教える。		
時間外に必要な学修				
設計課題に関する事例データ収集と施設調査を行い、設計検討を重ね、各回のデザインレビューの準備をする。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要説明 第1課題 ①「住宅のリビングルーム」 ②「お気に入りのインテリア写真のトレース着」	課題説明 資料収集、事例紹介、デザインテーマ・コンセプト検討。 様式、デザイナー研究		
2-3	確認	①デザインレビュー ②トレース確認		
4	第1課題プレゼン	発表と講評		
5	第2課題 「マンションのエントランス」	課題説明 資料収集、事例紹介、デザインテーマ・コンセプト検討。 マンションのエントランス研究		
6-7	デザインレビュー	ラフデザイン案発表、コンセプト		
8	中間プレゼン	発表と指示		
9	デザインレビュー、作業	模型、作品ボード作業		
10	第2課題プレゼン	発表と講評		
11	予備日	不合格者再提出		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布プリント 製図道具一式、模型製作道具一式		課題	100.0%	提出期限に遅れた場合、追課題を課す。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
修了制作		建築学科/1年	2023/後期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	69回	138時間	必須	山根利之
授業の概要				
1年間の総括として住宅、集合住宅を自分でテーマを決めてそれについて設計し、発表を行う。				
授業終了時の到達目標				
自分でテーマを決めて、コンセプトに沿って設計をまとめることができる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所の経験を活かし、建築の設計の知識と技術を教える。			
時間外に必要な学修				
授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要説明 第1課題「修了制作」	テーマ設定のための調査		
2-66	デザイン案検討	コンセプト立案、エスキス、ラフ模型検討 作図、模型製作、ボード構成		
67-69	最終プレゼン	完成模型、作品ボード		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
施工		建築学科/2年	2023/前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	野崎俊佑
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・建築物の新築工事、改修工事を中心とした施工全体の流れと、個々の施工段階の内容を学ぶ。 ・建築設計者の立場から見た、建築施工の勘所を知る。 ・建築に関わるステークホルダーとその相関関係を理解する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・設計者として施工に配慮した建築設計を行うための思考力の習得。 ・実務において施工者とのコミュニケーションを円滑に進めるための基礎知識の習得。 ・建築士資格や施工管理技士資格取得のための施工に関する基本的知識の習得。 				
(基本目標:C評価以上)				
・講義の内容を理解して、各講義ごとのレポートシートや期末課題を、設問に合わせて適切に記載出来ている				
(標準目標:B評価以上)				
自らの設計課題や建築やインテリアを見聞きした経験を、講義内容と論理的に結び付けて説明できる				
(発展的目標:A評価)				
建築インテリアデザイナーとしての立場と、施工者としての立場をよく理解し、相手の立場を配慮したコミュニケーション技術の基礎が身についている。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験			
時間外に必要な学修				
講義内容について、専門雑誌やweb等でリサーチをしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	前期授業概要説明	建築物施工の一連の流れ、建築に関わるステークホルダー 建築設計者の立場から、施工及び施工者に対する基本的な考え方		
2	内装仕上げ工事-1	壁、床、天井等の下地、仕上げ		
3	内装仕上げ工事-2	建具、ガラス、金属、造作、ユニット等		
4	設備工事、外構工事	電気、空調、給排水衛生、昇降機・機械式駐車場、防災設備等 植栽、舗装、工作物、外構設備等、免震対応、ZEB、再生可能エネルギー		
5	外装仕上げ工事-1	屋根(防水、屋根)、外壁(RC、ECP、ALC、PC、CB)、断熱		
6	外装仕上げ工事-2	仕上げ(石、左官、タイル)、サッシ、カーテンウォール		
7	躯体工事-1	RC(型枠、鉄筋、コンクリート)		
8	躯体工事-2	SRC、S、地震に対応する技術		
9	改修工事	耐震改修、防水改修、外壁改修、設備改修、改修仮設 リニューアル、リノベーション、コンバージョン		
10	土工事	山留、杭、掘削		
11	工事管理	建築生産の流れ、工事に携わる人々と組織体制 ゼネコンとサブコン、建築施工の仕事、工程		
12	工事請負契約、積算	設計図書の役割、工事請負契約の構成、施工者の法的責任 発注形態、工事見積の構成、積算の考え方		
13	準備工事、解体工事	地鎮祭、調査、仮設工事、改修仮設 解体、建設産廃		
14	竣工、維持保全	検査、引き渡し、竣工式 LCC、竣工後の点検・保守、修理・修繕・更新		
15	まとめ 施工と設計の違い、施工者と設計者の 違い	設計者から見た施工者、施工者から見た設計者 工事管理と工事監理、工事請負契約と設計監理契約 設計図を介した建築主、設計者、施工者の意思伝達		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
施工がわかる イラスト建築生産入門 適宜配布資料、映像資料等を提供		各講義ごとのレポートシートの内容 期末課題の内容	50% 50%	講義はオンデマンド 方式で発信しますので、事後学習に活用 してください。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
設備		建築学科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	野崎俊佑
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> •建築物の設備の目的・役割や、設備それぞれのメリットデメリットを学ぶ。 •意匠設計、建築インテリアデザインの立場から見た、建築設備の勘所を知る。 •地球環境に配慮した設備デザインの手法を学習する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> •建築設計において、設備システムや環境諸条件を配慮した設計を行うための思考力の習得。 •実務において設備設計者とのコミュニケーションを円滑に進めるための基礎知識の習得。 •建築士資格や建築設備士取得のための設備に関する基本的知識の習得。 				
(基本目標:C評価以上)				
•講義の内容を理解して、各講義ごとのレポートシートや期末課題を、設問に合わせて適切に記載出来ている				
(標準目標:B評価以上)				
自らの設計課題や建築やインテリアを見聞きした経験を、講義内容と論理的に結び付けて説明できる				
(発展的目標:A評価)				
建築インテリアデザイナーを行う意匠設計者の立場と、設備設計者としての立場をよく理解し、相手の立場を配慮したコミュニケーション技術の基礎が身についている。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験		
時間外に必要な学修				
講義内容について、専門雑誌やweb等でリサーチをしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	後期授業概要説明	建築設備の全体像、建築計画・建築環境と設備のマッチング 地球環境問題と建築・設備		
2	電気設備-1	電気設備の概要 発電、送電、受変電、動力、電灯、コンセント		
3	電気設備-2	弱電、情報関連設備 照明のエコ、シミュレーション		
4	電気設備-3	電気設備とデザイン、環境利用		
5	空調設備-1	空調設備の概要 気流分布、温熱環境、空調方式、空調制御、熱源方式		
6	空調設備-2	換気 空調のエコ、シミュレーション		
7	空調設備-3	空調設備とデザイン、環境利用		
8	給排水衛生設備-1	給排水衛生設備の概要 給水、給湯、排水、ガス		
9	給排水衛生設備-2	衛生のエコ 給排水衛生設備とデザイン、環境利用		
10	防災設備	消火設備、警報設備、避難設備、排煙設備 建築基準法、消防法との関係、防災設備とデザイン		
11	昇降機設備・機械式駐車設備	エレベーター、エスカレーター、ダムウエーター 昇降機設備とデザイン 機械式駐車設備のバリエーション		
12	設備設計と監理	設備設計における図面表現 設計上、監理上の留意点		
13	設備のエコ、環境性能評価	パッシブデザイン、建築計画とエコ 環境性能評価の手法		
14	維持管理、メンテナンス、更新	設備の耐用年数とメンテナンス 建築計画と更新性、更新時の配慮		
15	まとめ 設備と建築計画	建築物に求める環境性能、建築計画にとって適切な設備設計 意匠設計、建築インテリアデザインの立場から見た、建築設備		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる建築設備 適宜配布資料、映像資料等を提供		各講義ごとのレポートシートの内容 期末課題の内容	50% 50%	講義はオンデマンド 方式で発信しますので、事後学習に活用 してください。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
構造1		建築学科/2年	2023/前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	鍵山昌信
授業の概要				
<p>建物にはたらく力は、どのような力があるか理解する。 木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造の各種構造における材料の特性を理解・習得する。 木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造の各種構造における構造形式・構成を理解・習得する。 主体構造によって使用する材料や各部の作り方の違いについて理解・習得する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>建物にはたらく力は、どのような力があるか名称が分かる。 木造の特徴と各部構造の骨組み及び内部、外部仕上げの構成が理解できる。 木造の耐力壁の計算が出来る。 鉄骨造・鉄筋コンクリート造の各種構造における特性と各部の骨組み構成を理解できる。 木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造の各種構造において使用する材料の強度・特徴について理解できる。 上記のそれぞれの基本の理解から、独自の構造・仕上げに発展させることができる。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所での設計及び監理業務の実務経験。 建物を設計図を作成し、設計図どおりの建物を現場で施工していく経験を活かし、より具体的・実践的な指導を目指す。		
時間外に必要な学修				
授業範囲は必ず目を通す。疑問に思ったことなどはメモをするなどし、質問を積極的し、その単元の疑問はその場で解消する。 聞いたことのない建築専門用語はインターネットなどで自分で調べてみる。 街中で見かける建築がどんな構造を採用しているのかなど観察をする癖をつける。				
回	テーマ	内容		
1	シラバスの説明 第1章 建物にはたらく力と構造計画	建築構造のあらまし。・1.建物にはたらく力・ 2.地震に対する対策 3. 建物全体の構造計画		
2	第2章 木構造	1. 木材:木材の特徴・木質材料・2. 木構造の基礎知識:木構造の特徴構造形式		
3		3. 在来工法:基礎・地業・軸組		
4		3. 在来工法:柱頭・柱脚金物の位置基準・耐力壁の壁量計算 耐力壁の配置		
5		3. 在来工法:小屋組・床組・階段・接合部		
6		4. 枠組壁工法:①木材、面材の種類・釘、金物の種類・②各部構造、土台、アンカー ボルト 床組、耐力壁、小屋組、屋根 ・木構造振り返り		
7	第3章. 鉄骨造	1. 鋼材:鋼材の特徴,鋼材の形状・ 2. 鉄骨造の基礎知識:鉄骨造の特徴,構造形式		
8		3. 鉄骨構造:接合部材の設計,各部の構造,床板,階段,耐火被覆		
9	第4章 鉄筋コンクリート造	1. コンクリートと鉄筋:コンクリートの特徴,鉄筋の特徴 2. 鉄筋コンクリート造の基礎知識:鉄筋コンクリート造の特徴,鉄筋コンクリート造の原理,構造形式		
10		3. 鉄筋コンクリート構造:鉄筋の配筋計画,各部構造,階段 4. 壁式鉄筋コンクリート造:壁式鉄筋コンクリート造,壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造		
11	第5章 その他の構造 第6章 基礎	5章:1. 鉄骨鉄筋コンクリート造 ・2. 補強コンクリートブロック造 ・3. プレストレストコンクリート造 6章:1.基礎 ・2.地盤		
12	第7章 下地と仕上げ	1.防水 2.各部の下地と仕上げ,屋根,屋根,壁,床,天井		
13		3.開口部 ・4.階段 ・5.和室 鉄骨造・鉄筋コンクリート造:振り返り		
14	期末試験	期末試験		
15	構造まとめ	試験解説 全体まとめ		
16				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
やさしい建築一般構造(学芸出版社)		期末試験による評価 宿題取組得点で評価	期末試験 60% 提出宿題 30% 授業態度 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
構造2		建築学科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	鍵山昌信
授業の概要				
<p>・練習問題を通して、鉄筋コンクリートの建物にはたらく力を習得する。 ・使用する材料の特徴・構造形式・構成を深く理解し習得する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>鉄筋コンクリート造の特徴と各構造・構成を理解する。 鉄筋コンクリート造に使用される各材料の特徴と理解する。 資格試験に対応できる知識を身につける。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<p>建築設計事務所での設計及び監理業務の実務経験。 建物を設計図を作成し、設計図どおりの建物を現場で施工していく経験を活かし、より具体的・実践的な指導を目指す。</p>		
時間外に必要な学修				
<p>授業範囲は必ず目を通す。疑問に思ったことなどはメモをするなどし、質問を積極的し、その単元の疑問はその場で解消する。 聞いたことのない建築専門用語はインターネットなどで自分で調べてみる。 街中で見かける建築がどんな構造を採用しているのかなど観察をする癖をつける。</p>				
回	テーマ	内容		
1	第4章 鉄筋コンクリート造	1. コンクリートと鉄筋 :コンクリートの特徴、鉄筋の特徴		
2	第4章 鉄筋コンクリート造	2. 鉄筋コンクリート造の基礎知識 :鉄筋コンクリート造の特徴、鉄筋コンクリート造の原理、構造形式		
3	コンクリート一般問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
4	コンクリート一般問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
5	コンクリート一般問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
6	コンクリート強度に関する問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
7	鉄筋コンクリート一般問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
8	鉄筋コンクリート一般問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
9	配筋に関する問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
10	鉄筋比に関する問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
11	壁式鉄筋コンクリート造に関する問題一般問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
12	補強コンクリート造に関する問題一般問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
13	全体問題	20問 70分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換		
14	期末試験	期末試験		
15	構造まとめ	試験解説 全体まとめ		
16				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
やさしい建築一般構造(学芸出版社)		<p>期末試験による評価 宿題取組得点で評価</p>	<p>期末試験 60% 提出宿題 30% 授業態度 10%</p>	

科目名 構造力学1		学科/学年 建築学科/2年	年度/時期 2023/前期	授業形態 講義
授業時間 90分	回数 15回	授業時数 30時間	必須・選択 必須	担当教員 鍵山昌信
授業の概要				
建築物を構造設計するための構造力学の基礎知識を理解し習得する。 力や設計荷重を理解し、建築物に発生する荷重の影響を想定する。 単純梁・片持ち梁を力学的に理解する。 構造物に発生する応力を解析できる。構造解析から部材設計への応用を理解する。				
授業終了時の到達目標				
力の基礎:力の表現・モーメント・力の釣り合いが理解できる。 反力・応力計算において釣り合い条件式を使いこなす事が出来る。 静定構造物に発生する反力・応力(曲げモーメント:M・せん断力:Q・軸方向力 N)を仮定をし、反力・応力が求められる。 求めた反力・応力をもとに(曲げモーメント図・せん断力図・軸方向力図)応力図が描ける。 静定トラスの解法が(切断法・接点法・図解法のいずれかで)出来る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所での設計及び監理業務の実務経験。 建物を設計図を作成し、設計図どおりの建物を現場で施工していく経験を活かし、より具体的・実践的な指導を目指す。		
時間外に必要な学修				
授業範囲は必ず目を通す。疑問に思ったことなどはメモをするなどし、質問を積極的し、その単元の疑問はその場で解消する。 聞いたことのない建築専門用語はインターネットなどで自分で調べてみる。 街中で見かける建築がどんな構造を採用しているのかなど観察をする癖をつける。				
回	テーマ	内容		
1	シラバス説明 構造力学概要	構造に役に立つ計算式をやる(プリント)		
2	序章 力の基礎 1章 反力	力の基礎:分布する力、力のつり合い 1-1構造物の種類と表現		
3	1章 反力	1-2 単純梁の反力・1-3 片持ち梁の反力 1-4 ラーメンの反力 練習問題実施		
4	2章 部材に生じる力(応力)	2-1 応力の種類 2-2 応力の計算方法(単純梁)集中荷重・分布荷重 練習問題実施		
5		2-2 応力の計算方法(片持ち梁)集中荷重・分布荷重 練習問題実施		
6		2-2 応力の計算方法(単純ラーメン)集中荷重・分布荷重 練習問題実施 振り返り		
7	2章 部材に生じる力(応力)+(応力図)	単純梁:反力・応力・応力図 練習問題実施 片持ち梁:反力・応力・応力図 練習問題実施		
8		単純ラーメン:反力・応力・応力図 練習問題実施		
9	3章 静定構造の実用的解法	3-1 せん断図の作図法 単純梁・単純ラーメン		
10		3-2.3 曲げモーメント図の作図法 単純梁・単純ラーメン		
11		3-4 重ね合わせの原理 単純ラーメン		
12	4章 静定トラスの解法	4-1 切断法		
13	4章 静定トラスの解法	4-2 接点法・4-3図解法 振り返り		
14	期末試験	期末試験		
15	構造力学まとめ	試験解説 全体まとめ		
16				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
図説・建築構造力学(学芸出版社)		期末試験による評価 宿題取組得点で評価	期末試験 60% 提出宿題 30% 授業態度 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
構造力学2		建築学科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	鍵山昌信
授業の概要				
<p>建築物を構造設計するための構造力学の基礎知識を習得し少し複雑な構造体まで解くことができるようにする。 力や設計荷重を理解し、建築物に発生する荷重の影響を想定する。 単純梁・片持ち梁を力学的に理解する。 構造物に発生する応力を解析できる。構造解析から部材設計への応用を理解する。 断面に関する数量について理解する。座屈について理解する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>力の種類と大きさ、支持要素、変形などについて理解する。 1) 力の釣り合い式を使いこなせる。 2) 静定構造物に発生する反力・応力が求められる。 3) 断面に関する数量について理解する。(重心、断面1次・2次モーメント、断面係数、応力度、ヤング係数)</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	<p>建築設計事務所での設計及び監理業務の実務経験。 建物を設計図を作成し、設計図どおりの建物を現場で施工していく経験を活かし、より具体的・実践的な指導を目指す。</p>			
時間外に必要な学修				
<p>授業範囲は必ず目を通す。疑問に思ったことなどはメモをするなどし、質問を積極的し、その単元の疑問はその場で解消する。 聞いたことのない建築専門用語はインターネットなどで自分で調べてみる。 街中で見かける建築がどんな構造を採用しているのかなど観察をする癖をつける。</p>				
回	テーマ	内容		
1	1章 反力 2章 部材に生じる力	単純梁の反力・1-3 片持ち梁の反力・1-4 ラーメンの反力 練習問題実施 応力の計算方法(単純梁)集中荷重・分布荷重 練習問題実施		
2	2章 部材に生じる力	応力の計算方法(片持ち梁)集中荷重・分布荷重 練習問題実施		
3	2章 部材に生じる力	応力の計算方法(単純ラーメン)集中荷重・分布荷重 練習問題実施		
4	4章 静定トラスの解法	4-1 切断法 練習問題実施 解説		
5		4-2 接点法 練習問題実施 解説		
6	5章 断面に関する数量	図心・断面1次モーメント 練習問題実施 解説		
7		断面2次モーメント・断面係数 練習問題実施 解説		
8	6章 応力度	6-1 引張(圧縮)応力度		
9		6-2 曲げ応力度 6-3 せん断応力度		
10		6-4 許容応力度 6-5 許容曲げモーメント		
11		7-6 曲げ応力度と圧縮応力度との組み合わせ 練習問題実施 解説		
12	12章 座屈	12-1 弾性座屈荷重 練習問題実施		
13		反力～座屈まで練習問題実施 疑問等解説		
14	期末試験	期末試験		
15	構造力学まとめ	試験解説 全体まとめ		
16				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
図説・建築構造力学(学芸出版社)		期末試験による評価 宿題取組得点で評価	期末試験 60% 提出宿題 30% 授業態度 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築法規		建築学科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	岡田英治
授業の概要				
<p>社会で実際に建築行為等をする場合には法規を避けて通ることはできません。規制である反面、より良い都市・建築環境を創るためのバイブルでもあります。1年次に製図の授業で作図した住宅等をモデルに、建築基準法を中心にその内容を解説する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>一戸建ての住宅を設計する際に必要となる法令知識を身につける。</p> <p>(基本目標:C評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 与えられた問題に対して適切に法令集等を用いて回答を導くことができる 考査(課題レポート)における評点に加え、小課題レポートの加点により60点以上を獲得できる <p>(標準目標:B評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 与えられた問題に対して適切に法令集等を用いて回答を導くことができる 考査(課題レポート)における評点に加え、小課題レポートの加点により70点以上を獲得できる <p>(発展的目標:A評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 与えられた問題に対して適切に法令集等を用いて回答を導くことができる 考査(課題レポート)における評点に加え、小課題レポートの加点により80点以上を獲得できる 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での調査、企画、設計及び工事監理業務に伴う法的実務経験			
時間外に必要な学修				
<p>授業で学習した法規定がどのように実際の建物に影響を与えているか、自宅や通学途中に目にする建築物について考えてみること。また、予習として事前に教科書を一読しておくこと。</p>				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス・イントロダクション	授業の注意事項。建築基準法とはどのようなものか。建築基準法について。		
2	総括的規定1	用語の定義。		
3		面積と高さ。道路と敷地。壁面席。		
4		用途地域と用途制限、防火指定。		
5	実態的規定－集団規定	容積率、建蔽率。		
6		高さ制限と緩和。		
7		日影規制。		
8	実態的規定－単体規定	採光、換気。		
9		一般構造、設備。(防火避難規定)耐火要求、法22条区域。		
10	実態的規定－防火・避難規定	防火区画、内装制限。		
11		避難施設、非常用の避難施設。		
12	実態的規定－構造規定	構造計算、その他構造。		
13		木造、壁量計算、その他の構造。		
14	その他関係法規	手続きと建築基準法以外の法令について。(特に消防設備)		
15	まとめ	レポートの講評。		
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書:「超入門 建築法規 イラスト解説による 最新版」 参考書:「建築基準法関係法令集 2022年版」 参考書:「初学者の建築講座 建築製図 最新版」 (1年時製図の教科書) 教材:配布プリント		期末考査	100%	質問などはEメールでも受付ます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
室内環境学		建築学科/2年	2023/前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	松原 綾
授業の概要				
私達を取り巻く自然環境、都市環境、そして快適な室内環境の要素である、【光・熱・空気・風・音】の基礎知識を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
光・熱・空気・風・音等の環境要素の基礎を理解する。 室内環境を取り巻く要素を知り、コントロールすることで快適かつ省エネな暮らし方を提案できるような知識を習得する。				
実務経験有		実務経験内容		
有		建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験		
時間外に必要な学修				
・自分が生活や活動する室内空間が何によって快適に保たれているかを意識して観察する。				
回	テーマ	内容		
1～3	第一章 光環境	光環境の基礎知識について理解する。 ①授業概要、1-1 視覚、1-2 照度と輝度 ②1-3 昼光、1-4 人口照明 ③1-5 照明計画、2 色彩		
4～8	第二章 温熱環境	温熱環境の基礎知識について理解する。 ④1 温度と熱移動 ⑤2 室温と熱負荷 ⑥3 湿度と結露 ⑦前半テスト ⑧4 体感温度、5 太陽と日射 ⑨太陽と日射		
9～10	第三章 空気環境	空気環境の基礎知識について理解する ⑩1 室内の空気汚染物質、2 自然換気 ⑪3 機械換気、4 換気計画		
12～14	第四章 音環境	音環境の基礎知識について理解する ⑫1 音の性質 ⑬2室内の音 3室内の音響 4騒音と振動 ⑭後半テスト		
15	第五章 地球環境 特別講義	地球温暖化の今と住宅の温熱環境について理解する。 ⑮ 特別講義 講義後レポート提出		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
図説やさしい建築環境、A4ファイル		・前半テスト ・後半テスト ・レポート提出	45% 45% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
計画論2		建築学科/2年	2023/前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山根利之
授業の概要				
住宅、集合住宅の空間構成手法、設計手法を事例を用いて学ぶ。 設計をまとめるための計画する方法を学ぶ。 反転授業形式で進める。				
授業終了時の到達目標				
(基本目標：C評価以上) 建築・インテリアデザイナーとして必要な住空間の計画の知識が身につく。 ・住宅計画の手法を理解できる ・住宅を構成する様々な要素を、実体験を通して理解できる (標準目標：B評価以上) ・住宅計画の手法を設計に取り入れることができる ・住宅を設計するときに、実際の空間を理解し、正確に計画できる (発展的目標：A評価) ・住宅計画をインテリアデザイン、エクステリアデザインまでトータルな視点で設計に取り入れることができる ・コンセプトに基づいた独創的な住空間の計画を提案できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、授業内で指示する。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要説明 住空間の構成	計画のプロセス 1敷地計画、2平面的類型、3断面的類型 1機能計画、2動線計画、3ゾーニングとブロックプラン		
2, 3	形の発想1 反2	形態的発想1~2 テキスト解説+各事例紹介		
4, 5	形の発想2 反2	形態操作的発想1~2 テキスト解説+各事例紹介		
6	インテリアデザイン1	インテリアデザインの発想		
7	インテリアデザイン2	インテリアデザインの手法		
8	インテリアデザイン3	光の様相、あかりのデザイン		
9	インテリアデザイン4 反	開口部のデザイン テキスト解説+各事例紹介		
10	エクステリアデザイン 反	水と緑の様相 エクステリアとインテリア エクステリアデザインの発想		
11	住空間構成手法1 反	フランクロイドライト テキスト解説+代表作数点解説		
12	住空間構成手法2 反	ル・コルビュジェ テキスト解説+代表作数点解説		
13	住空間構成手法3 反	ミースファンデルローエ テキスト解説+代表作数点解説		
14	住空間構成手法4 反	ルイスカーン テキスト解説+代表作数点解説		
15	住空間構成手法5 反	安藤忠雄 テキスト解説+代表作数点解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
住空間計画学		発表1回/人 (第1, 6-8週はQ&Aのみ)	100.0%	分担して各回発表

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築史		建築学科/2年	2023/前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	植村祐介
授業の概要				
<p>古代ギリシャ時代から、現代までの主要な建築を、写真や図版を見ながら学習し、建築と社会との関係性、構造の発展、意匠について説明する。また、単なる史実の伝達にとどまらず、現代における建築への向き合い方、設計におけるヒントなどへの気付きを得るために、毎回、授業の中で建築の模写(クロッキー)を行う。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>西洋における、各時代の建築様式の特徴と、その理念について理解する。 建築における構造、意匠(デザイン)とが、社会的また歴史的背景によって成立している事実について理解する。 現代におけるデザインの方向性、世界的な動向、注目される考え方などについて考察する。</p> <p>(基本目標:C評価以上) ・建築の歴史の変遷を理解する ・その時代の意匠的な特徴を模写で捉えることができる</p> <p>(標準目標:B評価以上) ・加えて、建築における表現とその背景にある社会の動きを関連して理解することができる</p> <p>(発展的目標:A評価) ・加えて、現代の建築意匠について歴史的見地から考察し、考えをプレゼンテーションできる</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験		
時間外に必要な学修				
<p>教科書や紹介する映像や画像等で事前学習をして概要を理解しておくこと 模写について授業内で完成できない場合は次の週までに完成させデータを提出しておくこと</p>				
回	テーマ	内容		
1	概要説明 全史通観	スライドレクチャー、レビュー、ディスカッション、情報共有		
2	古代建築(ギリシャ建築、ローマ建築)	該当する時代の建築模写		
3	中世建築(ロマネスク建築、ゴシック建築)	該当する時代の建築模写		
4	近世建築(ルネサンス建築、バロック建築)	該当する時代の建築模写		
5	新古典主義、歴史主義、折衷主義	該当する時代の建築模写		
6	日本建築史	該当する時代の建築模写		
7	近代建築1(産業革命後の表現)	該当する時代の建築模写		
8	近代建築2(芸術運動としての建築)	該当する時代の建築模写		
9	20世紀建築1(モダニズム、その他)	該当する時代の建築模写		
10	20世紀建築2(ポストモダン、その他)	該当する時代の建築模写		
11	日本の住宅建築史	該当する時代の建築模写		
12	現代建築1	該当する時代の建築模写		
13	現代建築2	該当する時代の建築模写		
14	レポート	「建築デザインと歴史、社会」等		
15	まとめ、レビュー	レポート返却、まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
図説 建築の歴史		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%	質問、チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築CAD製図3		建築学科/2年	2023/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
前180・後270分	21回	96時間	必須	盛岡 隆治
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・CADシステムを扱う上で、必要な基礎知識を習得する。 ・必要な資料から平面図、立面図をJWCADを使用して作図する。 ・建築CAD検定試験3級、2級、準1級の受験対策と、JWCADの基本操作を実際に作図しながら、より円滑な操作の習得を目指す。 				
授業終了時の到達目標				
<p>(基本目標:C評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題が4割程度作図できており、CADの基本操作が理解できる。 <p>(標準目標:B評価以上)</p> <p>課題の7割以上が作図でき、課題やCAD操作の質問をし、それを作図に反映できる。</p> <p>(発展的目標:A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築CAD検定で3級においては確実に、2級では取得できると思われる作図技能を取得しており、課題を理解し複数の手順で書くことで、自分の作図を確認修正することができる。 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計・設計監理の業務。			
時間外に必要な学修				
<p>CADの操作は慣れが必要です、できるだけ多くの時間CADに触れる機会をつくと良いと思います。特に夏休み期間はCADに触れる機会が少なくなり操作を忘れてしまい、10月の検定試験に慌てるのが毎年見受けられます、週に1～2回はパソコンを開き配布プリントを見て少しでも授業の復習をしてください。</p> <p>他の授業でもCAD使える機会があれば使ってみましょう、操作で分からないところは質問してみてください。</p> <p>JwCADはフリーソフト汎用ソフトです、様々な作図を試してみましょう。</p>				
回	テーマ	内容		
1	検定課題の概要の説明,Jw_cad 概要、操作の復習。	検定内容の説明操作の復習。 3級過去問題プリント又はテキストによる練習。		
2	3級過去問題による練習	3級過去問題プリント又はテキストによる練習。		
3	JwCADの作図以外でよく使う機能の説明	図面作図以外で必要な操作の解説、プレゼンなどに役立つ機能。		
4	2級過去問題(木造平面詳細図)による演習	検定内容の説明、プリント又はテキストによる平面詳細図の練習。		
5		2級過去問題プリント又はテキストによる平面詳細図の練習。		
6		2級過去問題プリント又はテキストによる平面詳細図の練習、復習。		
7	2級過去問題(木造立面図)による演習	2級過去問題プリント又はテキストによる立面図の練習。		
8		2級過去問題プリント又はテキストによる立面図の練習、復習。		
9	2級過去問題による様々な屋根形状、立面図の演習	2級立面図のみ過去問題から2課題出題。		
10		2級立面図のみ課題から出題解説。(どの級を受験するか確定する)		
11	準1級2級3級過去問題による小テスト形式	準1級と2級は一課題、3級は二課題を過去問題から出題、作図。		
12		前時間からの課題作図終了後、チェック復習。		
13	準1級2級3級過去問題による小テスト形式	準1級と2級は一課題、3級は二課題を過去問題から出題、作図。		
14		前時間からの課題作図終了後、チェック復習。		
15	これまでの課題の総復習	これまでの課題チェック復習。(夏休み前の確認)		
16	準1級2級3級過去問題による小テスト形式	準1級と2級は一課題、3級は二課題を過去問題から出題、作図。		
17	準1級2級3級過去問題による小テスト形式	準1級と2級は一課題、3級は二課題を過去問題から出題、作図。		
18	準1級、3級過去問題。2級は立面図を集中チェック。	準1級3級は作図時間の再確認、2級は屋根形状立面の確認。		
19	準1級3級は過去問題の演習、2級は立面図の演習	準1級3級受験の弱い部分の強化、2級屋根形状立面の確認、復習。		
20	試験前対策	試験前、総点検。		
21	試験後復習	試験後の自己採点復習。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書:建築CAD検定試験 公式ガイドブック 課題資料:プリント配布 教材:三角スケール、マーカー等		各課題は基本授業終了後に提出し授業中に作図した内容、到達程度での評価。	100.0%	質問は急ぎの事柄がない限り授業終了後の昼休憩時間にも個別に受け付けています。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築CAD応用		建築学科/2年	2023/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	30回	60時間	必須	衛藤翔平
授業の概要				
<p>建築CAD製図で身に付けた技術をベースに、さらにその他のソフトウェアを活用し、プレゼンテーション力高める技術を習得する。プレゼンテーションボードを制作する上で、ひとつのイメージ(画)の出来栄は非常に重要。授業課題やコンペなどで高いレベルのプレゼンテーションボードが制作できるようになるためのプロセスを体験を通して学ぶ。そのためには、パソコンとソフトウェアの技術だけでなく、絵心や視覚情報伝達の技術(グラフィックデザインの基礎)も重要であり、構想力や編集力といった「考える力」を養うことに主眼を置く。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>(基本目標:C評価以上) ・課題の趣旨を理解し、各回の授業で指示された作業を進めることができる</p> <p>(標準目標:B評価以上) ・課題について標準的なレベルでプロジェクトをまとめることができる</p> <p>(発展的目標:A評価) ・課題について社会に通用するレベルでプロジェクトをまとめることができる ・デザインを通して社会とコミュニケーションできる</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験			
時間外に必要な学修				
専門雑誌やwebサイトのチェック。幅広くカルチャーや社会に興味を持ち設計・デザインへのヒントを探る習慣を持つこと				
回	テーマ	内容		
1	ビジュアルデザインの基礎技術	建築業界で用いられるビジュアルデザイン		
2		プレゼンテーション演習		
3		文字の役割 図の役割(名刺デザイン)		
4		ポスターをデザインする		
5		フライヤーをデザインする		
6		基礎技術の応用課題		
7	デジタルプレゼンテーション技術	画像レタッチの基礎		
8		図面を魅力的に仕上げる		
9		モンタージュ(画像合成) 添景の合成		
10		モンタージュ(画像合成) 素材の貼り付け		
11		モンタージュ(画像合成) 背景との合成		
12		モンタージュ(画像合成) その他の視覚効果		
13		プレゼンテーション資料作成1		
14		プレゼンテーション資料作成2		
15		フィードバック		
16	卒業制作プレゼンテーション作成	毎週卒業制作のプレゼン資料を段階的に制作		
17		>上記について全体への指導、個別指導でフィードバック		
18		↑		
19		↑		
20		↑		
21		↑		
22		↑		
23		↑		
24		↑		
25		↑		
26		↑		
27		↑		
28		↑		
29		↑		
30		最終プレゼンテーション		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
-		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%	質問、チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
卒業制作		建築学科/2年	2023/後期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	85回	170時間	必須	山根利之
授業の概要				
2年間の総括として自分でテーマを決めてそれについて設計し、発表を行う。				
授業終了時の到達目標				
自分でテーマを決めて、コンセプトに沿って設計をまとめることができる。				
実務経験有	実務経験内容			
有	建築設計事務所の経験を活かし、建築の設計の知識と技術を教える。			
時間外に必要な学修				
授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要説明 第1課題「卒業制作」	テーマ設定のための調査		
2-30	デザイン案検討	コンセプト立案、エスキス、ラフ模型検討		
31-35	個別中間プレゼン	設計案を説明できる概要発表		
36-84	デザイン案検討	作図、模型製作、ボード構成		
85-87	最終合同プレゼン	完成模型、作品ボード		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築設計演習2		建築学科/2年	2023/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	30回	60時間	選択	山根利之
授業の概要				
建築の設計について、動線計画、断面計画、グリッドプラン、敷地計画などの設計の基本手法を実践的に習得するとともに、提案力と独創性を実践的に習得する。また、作品としての表現力を向上させる。建築デザイン（1年生）と合同授業。				
授業終了時の到達目標				
建築設計プロセスを理解できる。さらにそれらを活かして、卒業制作へ発展させる。また、基本となる表現テクニックが身につく。 （基本目標：C評価以上） ・建築的空間の機能やコンセプトを立案することができる ・基本的な建築計画に沿って設計できる （標準目標：B評価以上） ・建築的空間の機能やコンセプトに基づいたデザインができる ・基本的な建築計画に沿った正確な図面表現によって設計できる （発展的目標：A評価） ・建築的空間の機能やコンセプトをデザインし、図面や模型を駆使して伝えることができる ・正確な図面表現とともにシャープな着想から導かれた独創性のある設計を提案できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所の経験を活かし、公共建築の設計の知識と技術を教える。		
時間外に必要な学修				
設計課題に関する事例収集と敷地環境調査を行い、設計検討を重ね、各回のデザインレビューの準備をする。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要説明 第1課題「都市環境デザイン1」	中の棚マイクロオープンスペース（1，2年生混成共同設計） 資料収集、事例紹介、デザインテーマ・コンセプト検討。		
2～5	デザイン案発表、デザインレビュー	デザイン案発表、デザインレビュー		
6	合同プレゼン 5/31	ID2ショップデザイン2、インテリアコーディネート2との合同プレゼン。		
7	第2課題「図書館」	地域に開かれたコミュニティ図書館（1，2年生混成共同設計） 小学校計画確認、敷地設定、事例調査、資料収集、 デザインテーマ・コンセプト検討。		
8～12	デザイン案発表、デザインレビュー	デザイン案発表、デザインレビュー		
13	合同プレゼン 7/19	ID2ショップデザイン2、インテリアコーディネート2との合同プレゼン。		
14	第3課題「美術館」	周辺環境に配慮した開かれた美術館（個人設計） 美術館計画確認、敷地設定、事例調査、資料収集、 デザインテーマ・コンセプト検討。		
15～19	デザイン案発表、デザインレビュー	デザイン案発表、デザインレビュー		
20	合同プレゼン 11/1	ID2ショップデザイン2、インテリアコーディネート2との合同プレゼン。		
21～25	第4課題「卒業制作」 卒制中間プレゼン 12/6	敷地設定、事例調査、資料収集、デザインテーマ・コンセプト検討。		
26	1年生プレゼン審査講評 12/13	1年第3課題の審査講評		
27～30	第4課題「卒業制作」継続			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布プリント 製図道具一式、模型製作道具一式		課題・レポート	100.0%	第4課題は評価に加えない。提出期限に遅れた場合、追課題を課す。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築製図2		建築学科/2年	2023/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	30回	60時間	選択	岡田 英治
授業の概要				
<p>建築製図の基礎を実際の作図を通して習得する。 1年次に作図した木造住宅にとどまらず、非木造非住宅の建物の作図を通して他構造他用途へ理解を広める。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>1年時に習得した能力に更に構造体も含めて建築物を理解し、作図できるようになる。 また、実際の二級建築士製図の試験の課題に対して回答を作図できるようになる。</p> <p>(基本目標:C評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題の内容を正しく作図できる 手書きでエスキスやスケッチができ、考えを整理できる <p>(標準目標:B評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題の内容を正しく、かつ丁寧に分かりやすく作図できる 作図した図面から立体空間を認識できる エスキスやスケッチの途中で担当教員のチェックを受けてプランを修正することができる <p>(発展的目標:A評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題の内容を正しく、かつ線の強弱を用いて丁寧に分かりやすく作図できる 作図した図面から立体空間を認識できる 求められた条件に適合する施設を設計、提案することができる 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所での調査、企画、設計及び工事監理業務に関する実務経験		
時間外に必要な学修				
<p>課題で作図している内容を街の中にある施設に置き換えて確認してみること。 また、各部分の寸法を実際に測ってみること。</p>				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	年間予定及び木造コース、非木造コースの選択についての説明		
2	第1課題:「鉄骨造コミュニティ施設 配置図・平面図」	教科書の鉄骨造2階建てコミュニティ施設の配置図、各階平面図を作図する		
3				
4				
5				
6		第1回合同プレゼン	選択1の第1回合同プレゼンに出席し、視聴する	
7	第2課題:「鉄骨造コミュニティ施設 断面図・立面図」	教科書の鉄骨造2階建てコミュニティ施設の断面図、立面図を作図する		
8				
9				
10	第3課題:「RC造(ラーメン)住宅 矩計図」	教科書のRC造(ラーメン)2階建て住宅の矩計図を作図する。		
11				
12				
13	第2回合同プレゼン	選択1の第2回合同プレゼンに出席し、視聴する		
14	第6課題:「二級建築士製図試験過去課題模擬演習－RC造コミュニティ施設」	エスキース		
15				
16		平面図		
17				
18		立面図		
19		断面図		
20		面積表・仕上表等		
21	第3回合同プレゼン	選択1の第3回合同プレゼンに出席し、視聴する		
22	卒業制作	これまでに習得した製図の知識を基に卒業制作を進める		
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書:「初学者の建築講座 建築製図 最新版」 参考書:「構造用教材」 教材:平行定規他製図道具一式		全課題が提出され、到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する。	100%	質問、チェック依頼などはEメールでも受付ます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築製図2		建築学科/2年	2023/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	30回	60時間	選択	岡田 英治
授業の概要				
<p>建築製図の基礎を実際の作図を通して習得する。 1年次に作図した木造住宅の構造図を作図して構造的な内容の理解を深める。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>1年時に習得した能力に更に構造体も含めて建築物を理解し、作図できるようになる。 また、実際の二級建築士製図の試験の課題に対して回答を作図できるようになる。</p> <p>(基本目標:C評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題の内容を正しく作図できる 手書きでエスキスやスケッチができ、考えを整理できる <p>(標準目標:B評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題の内容を正しく、かつ丁寧に分かりやすく作図できる 作図した図面から立体空間を認識できる エスキスやスケッチの途中で担当教員のチェックを受けてプランを修正することができる <p>(発展的目標:A評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題の内容を正しく、かつ線の強弱を用いて丁寧に分かりやすく作図できる 作図した図面から立体空間を認識できる 求められた条件に適合する施設を設計、提案することができる 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での調査、企画、設計及び工事監理業務に関する実務経験			
時間外に必要な学修				
<p>課題で作図している内容を自宅に置き換えて確認してみること。 また、各部分の寸法を実際に測ってみること。</p>				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	年間予定及び木造コース、一般構造コースの選択についての説明		
2	第1課題:「木造住宅 基礎伏図」	教科書の木造2階建て住宅の基礎伏図を作図する。		
3				
4	第2課題:「木造住宅 1階床伏図」	教科書の木造2階建て住宅の1階床伏図を作図する。		
5				
6	第1回合同プレゼン	選択1の第1回合同プレゼンに出席し、視聴する		
7	第3課題:「木造住宅 2階床伏・1階小屋伏図」	教科書の木造2階建て住宅の2階床伏・1階小屋伏図を作図する。		
8				
9	第4課題:「木造住宅 小屋伏図」	教科書の木造2階建て住宅の小屋伏図を作図する。		
10				
11	第5課題:「木造住宅 軸組図・軸組詳細図」	教科書の木造2階建て住宅の軸組図・軸組詳細図を作図する。		
12				
13	第2回合同プレゼン	選択1の第2回合同プレゼンに出席し、視聴する		
14	第6課題:「二級建築士製図試験過去課題模擬演習-木造2階建て住宅」	エスキース		
15		平面図		
16				
17		立面図		
18				
19		矩計図・面積表		
20				
21	第3回合同プレゼン	選択1の第3回合同プレゼンに出席し、視聴する		
22	卒業制作	これまでに習得した製図の知識を基に卒業制作を進める		
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書:「初学者の建築講座 建築製図 最新版」 参考書:「構造用教材」 教材:平行定規他製図道具一式		全課題が提出され、到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する。	100%	質問、チェック依頼などはEメールでも受付ます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
照明デザイン1		建築学科/2年	2023年度/前期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	選択	重川隆一
授業の概要				
照明器具の基礎となる光源と照明器具の特性について学び、主には実習を通して光の原理や現象あるいは海外のあかり文化を体験し、そこから照明効果への応用について理解を深めていく。				
授業終了時の到達目標				
照明の基礎とそれに関わる電気の安全知識について習得する。また、実習を通して光の効果を予測することを学び、空間認知を前提とした照明計画技術の基礎を習得する。後半の実習では様々なプロダクトの制作を通じて、楽しみや喜びに変わる光の体験によって光への興味をより深めることを到達目標としている。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		照明メーカーに10年間勤務し、照明器具設計と照明デザイン業務に携わる。その後、照明デザインの会社を設立し、現在ではプロダクト開発まで手がけている。多岐にわたる実績から生まれた、光を楽しむという経験から照明を学ぶプログラムを実践している。		
時間外に必要な学修				
授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	光のガイダンスⅠ	照明に関わる様々な仕事について紹介		
2	光のガイダンスⅡ	人類の進化とあかりの歴史について紹介 基本光源である太陽について考察する		
3	照明に必要な電気の基礎知識	電気の基礎用語についての説明		
4	手作り照明(ハウスランプの製作)ガイダンス	白熱電球の点灯回路の説明 照明器具と電気用品安全法について説明		
5	手作り照明(ハウスランプの製作)	光の効果を予測しながら照明器具を製作する		
6	手作り照明(ハウスランプの製作)	光の効果を予測しながら照明器具を製作する		
7	手作り照明(ハウスランプの製作)	光の効果を予測しながら照明器具を製作する		
8	住宅の照明計画ガイダンス	住宅照明におけるエリアごとの注意点を説明 照明カタログの基本的な使い方を説明		
9	住宅照明計画	空間認知による照明計画		
10	住宅照明計画	空間認知による照明計画		
11	住宅照明計画	空間認知による照明計画		
12	インテリア・ハーバリウムで光の屈折率を学ぶ	空気の屈折率と液体(水やオイル)の屈折率の違いによってこる現象を実際に体験し、照明器具への応用について理解を深める		
13	手作り照明及び住宅照明計画の課題統括	提出された課題を個々に紹介し、高評価点や改善点を説明する		
14	手作りアロマキャンドルとアロマワックスパー	あかりと香りのヒーリング効果について アロマキャンドルの作り方		
15	サンキャッチャーとトランスパレントペーパーから学ぶ北欧文化	サンキャッチャーをはじめ、クリスタルシャンデリアの素材であるクリスタルガラスについて学ぶ 北欧由来の雑貨から暮らしの文化を探る 北欧生まれのデザイナーズ照明について学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		提出課題 2種類 手作り照明及び住宅照明プラン 最重要評価基準 提出期限の厳守	各50%	【準備学習】 授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常に準備しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
照明デザイン2		建築学科/2年	2023年/後期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	11回	22時間	選択	小田綾子
授業の概要				
<p>照明デザインという極めて専門的な分野を実務レベルで実践できる力を養う。光とは何か?からRGBを使った実験などを通じ自然光を知ることで人工光を考察する。生活における光の役割、建築と光の関係を説き、空間にふさわしい独創的な照明計画ができる技術を身につける。1プロジェクトの照明計画を段階的に全授業を通して仕上げる。JW-CADを使った配線図作成、照度計算ソフト(Dialux)による3Dシミュレーション、言葉の構築などプレゼンテーションに必要な表現のスキルを習練する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>(基本目標:C評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・照明計画の基本プロセスが理解できる。 ・図面にラフプランが描ける。 ・考えを照明計画に反映させることができる。 <p>(標準目標:B評価以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件を整理し標準的な照明計画ができる。 ・導線を考慮したスイッチ配線計画をJW-CADを使って作成できる。 ・3D照度計算ソフト(Dialux)により、シミュレーションと検証ができる。 ・第三者とイメージが共有できるプレゼン資料(配置図・配線図・CG)の制作ができる。 <p>(発展的目標:A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトと計画の整合があり、方向性が明確に伝わる。 ・クライアントの想像を超える先進的で提案型の照明計画ができる。 ・第三者を魅了するプレゼンテーションができる。 ・言葉をつかった光の表現が独創的かつ繊細で表現力に富んでいる。 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	照明デザイン事務所での一連の設計業務・照明器具の企画製作・現場監理			
時間外に必要な学修				
授業の復習 遅れがでたところの自習 日常で出会う照明の考察				
回	テーマ	内容		
1	授業のアウトライン 光遊び	照明デザインという仕事、授業の到達点、身に付くスキル、光とは		
2	照明器具という道具を知る	カタログに触れ、器具に触れる、配光データの読み方、照度計算、照明用語		
3	建築化照明を使い分ける	コーブ・コーニス・バランス、きれいな取め方、適光適所の法則		
4	ダウンライト・ブラケット・スポットライトの攻略法	ダウンライトとスポットライトで使う明かりと魅せる明かりを実現		
5	シーン別・行為別照明のポイント	取りこぼさない照明計画のための事例集いろいろ		
6	学外授業	企業の最新アップデート型オフィス環境を視察(中町)		
7	プロジェクトの照明計画～プレゼン(課題1)	ラフプラン 配線図作成		
8		配線図(課題2)		
9		プランボードを配線図(JW)でつくる時短テクニック		
10		Dialux EVO活用術/プランの調整		
11		伝わるプレゼンテーション 総括		
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・メーカーの照明カタログ(DAIKO) ・課題の図面資料 		到達目標の進捗 課題の提出	100.0%	クラスルームを活用し、授業の案内や補足をしたり質問も受け付けます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
設計実務演習		建築学科/2年	2023/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	30回	52時間	選択	植村祐介

授業の概要

擬似的な設計事務所の環境で実務プロセスについて体験的に学ぶ。アイデアコンペ、実施コンペ、外部からのデザイン依頼、実際の設計事務所のプロジェクトの連携など、随時実情に合わせたスケジュールで並行的に進捗していくプロジェクトを個人やチームで分担し進めていく。毎週次回までの作業が課され、それを元に毎週レビューを行い、軌道修正の指示を受けて改善しまとめていくプロセスを繰り返し、設計事務所が必要とされる実務スキルを習得する。

授業終了時の到達目標

(基本目標:C評価以上)

- 与えられた担当課題の趣旨を理解し、スケジュールに沿って作業を進めることができる

(標準目標:B評価以上)

- 与えられた担当課題について標準的なレベルでプロジェクトをまとめることができる

(発展的目標:A評価)

- 与えられた担当課題について社会に通用するレベルでプロジェクトをまとめることができる
- デザインを通して社会とコミュニケーションできる

実務経験有無	実務経験内容
有	建築設計事務所での設計業務全般と支援を通してコンペ受賞、雑誌掲載、メディア掲載等

時間外に必要な学修

専門雑誌やwebサイトのチェック。幅広くカルチャーや社会に興味を持ち設計・デザインへのヒントを探る習慣を持つこと

回	テーマ	内容
1	産学や他プロジェクトに対応	毎回プロジェクトの進捗に合わせて以下のサイクルで体験的に学ぶ
2		・プロジェクトのアサイン
3		・デザインレビュー(毎週)
4		・プロジェクトミーティング
5		・プレゼンテーション、引き渡し等
6		↑
7		↑
8		↑
9		↑
10		↑
11		↑
12		↑
13		↑
14		↑
15		↑
16		↑
17		↑
18		↑
19		↑
20		↑
21		↑
22		↑
23		↑
24		↑
25		↑
26		↑
27		↑
28		↑
29		↑
30		↑

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
-	到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する□	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
住宅デザイン		建築学科/2年	2023/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	26回	52時間	選択	藤山信博
授業の概要				
住宅空間の考え方の基礎を学び、漠然とした「空間」というものを自分のコンセプト通りに操作できるようにする。また各課題を通して図面の描き方の基本事項を1年次より引き継ぎ、手描きにて具現化する。 教科書「建築鑑賞入門」を参考として、デザインの考え方を教授する。				
授業終了時の到達目標				
住宅をデザインする上で、学生自らの考案または創造した形態を、誤解なく第三者に伝えるための図面の描き方を修得する。 第三者を魅了するコンセプトの提案、および模範的な図面を手描きでできる。 ・(A評価) 第三者を魅了するコンセプトの提案、および模範的な図面を手描きでできる。 ・(B評価) コンセプトを図面に反映させることができる。平均的な図面を手描きでできる。 ・(C評価) エスキス、基本図面(三面図、平面図、立面図、断面図)を手描きでできる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		藤山建築デザイン事務所主催。設計、監理業務に関する一連の実務経験		
時間外に必要な学修				
次回授業範囲の教科書を予習する。 授業でのアドバイスを家庭学習として作業をすすめておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	実習課題1(デスク三面図トレース)	授業内容、評価方法の説明。基本図面の描き方の解説。 家具図面(三面図)のトレース		
2-5	実習課題2(自分の部屋にあったらいいな家具)	コンセプトの考え方、エスキス方法の解説。 アイソメの描き方		
6-15	実習課題3(マンションリノベーション)	Beforeマンションの図面と実際の内観スライドを確認しながら、リノベーションアイデアをまとめる。図面を正しく読み解く力を養う。展開図、照明・電気図の描き方		
16-26	実習課題4(住宅設計)	法規、構造等を考慮した、正確な図面を作成する。 コンセプトからプランを導き出す。プレゼンにて自分の考えを表現する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
建築鑑賞入門(鹿島出版会)【貸与】 製図道具一式(平行定規含む)		課題と提出状況および積極的参加度。 全課題を提出とし、その内容や提出期限を考慮して総合的に評価する。	100%	時間が必要な質問がある場合はメールにて予約を取ること。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
空間デザイン		建築学科/2年	2023/前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	26回	52時間	選択	岩竹俊範
授業の概要				
<p>空間+〇〇という組み合わせで、毎課題ごとに、実際活躍している特別講師を招き、新しい価値を見出す空間を想像する。 アイディアをだけでなく実現性がある提案が出来るように、リサーチ・周辺環境を行う。 考えたものを誰にどのように伝えるかでプレゼン手法が変わってくる事を理解し、プレゼンを行い、実践に利用出来るスキルを学ぶ。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>(基本目標:C評価以上) ・空間設計の基本プロセスが理解できる ・手描きでエスキスやスケッチができる ・考えを設計に反映させることができる ・模型の作る精度をあげる事ができる</p> <p>(標準目標:B評価以上) ・条件を整理し標準的な空間が設計できる ・毎週(区切り)ごとに定期的にチェックを受けて修正することができる ・第三者に伝えるうえで必要十分なプレゼン資料(模型・ボード)を制作できる</p> <p>(発展的目標:A評価) ・コンセプト・提案性を持つ空間設計・デザインを考えられる ・他の学生に対し指標となる制作プロセスを授業中のデザインレビュー等で公開することができる ・第三者を魅了するプレゼン資料(模型・ボード)を制作できる</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		ure主催。設計、監理業務に関する一連の実務経験		
時間外に必要な学修				
<p>授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。</p>				
回	テーマ	内容		
1	手を動かして考える	手を動かしながら考えることを体感する		
2	考えること考える①	デザインする際の考え方を学ぶ		
3	考えることを考える②	デザインのアウトプットをグループワークで行う。		
4	プレゼンの基本	プレゼンの基本を学ぶ		
5	模型の作り方	模型を作成		
6	第1課題	課題発表 課題のインプット		
7		リサーチ・分析・与条件の整理		
8		フレームワークをしてアイデアをまとめる。エスキス		
9		プレゼン方法を考える。		
10		模型・スケッチ・パースの作成		
11		プレゼンをまとめる。		
12		プレゼンテーション		
13	第2課題	ゲスト講師紹介 課題発表 課題のインプット		
14		リサーチ・分析・与条件の整理		
15		フレームワークをしてアイデアをまとめる。エスキス		
16	前期最終	プレゼン方法を考える。		
17		模型・スケッチ・パースの作成		
18		プレゼンをまとめる。		
19		講師とプレゼンテーション		
20	第3題	ゲスト講師紹介 課題発表 課題のインプット		
21		リサーチ・分析・与条件の整理		
22		フレームワークをしてアイデアをまとめる。エスキス		
23		プレゼン方法を考える。		
24		模型・スケッチ・パースの作成		
25		プレゼンをまとめる。		
26	2023年最終授業	ゲスト講師とプレゼンテーション		
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%	授業中に質問、確認の時間をとるように進行します。 質問、チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
インテリア研究		建築学科/2年	2023/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	26回	52時間	選択	實藤優子
授業の概要				
インテリアに関するテーマをそれぞれが設定し、それに関する研究と発表を行う。				
授業終了時の到達目標				
インテリアに関する専門知識を身に付ける。インテリア全般関すること、または、分野を絞った専門性の高い内容を設定し、研究を進める。卒業制作の題材設定の参考になる資料の作成も行う。 (基本目標:C以上) ・自身の興味のある分野を決め、資料を集めることができる。 (標準目標:B以上) ・分野を定め、資料を読み解き、まとめることができる。 ・校外調査の内容をわかりやすくまとめることができる。 (発展的目標:A) ・テーマ設定後、資料の読解、事例研究、校外調査を一貫して行いわかりやすい資料にまとめ発表することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		設計事務所にてインテリアデザイナーとしての経験。		
時間外に必要な学修				
興味がある分野を明確にし、何故興味があるのかを他者に説明できるようにしておく。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	授業の進め方について 資料の集め方 web活用の方法		
2	ディスカッション テーマ設定	想定される分野や興味のある分野について意見を交換する それぞれの研究テーマを決定する		
3~5	研究①	研究計画作成 資料収集		
6	調査①	校外調査(広島市近郊)		
7~11	研究②	資料収集 意見交換		
12	調査②	校外調査(広島市近郊)		
13・14	研究③	資料の読解、事例研究 意見交換		
15	中間発表	各自発表		
16	前期の研究内容確認と後期計画立案	前期内容を振り返り、後期の予定を立案する		
17・18	研究④	資料収集、資料の読解、事例研究 意見交換		
19	調査③	校外調査(広島市近郊)		
20・21	研究⑤	資料収集、資料の読解、事例研究、発表準備 意見交換		
22	調査④	校外調査(広島市近郊)		
23	最終発表準備	発表用資料作成		
24	プレ最終発表	各自発表後、意見交換、発表内容修正		
25	最終発表準備	プレ最終発表を受けて各自修正		
26	最終発表・まとめ	各自発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
特になし 必要資料は各自で集めること		発表 作成資料	60% 40%	